

組み体操の見直し検討

文科相が示唆

馳浩文部科学相は五日の衆院予算委員会で、事故が多発している学校での組み体操について「文科省として重大な関心を持って取り組まざるを得ない」と述べ、見直しを検討することを示唆した。――関連①面

「だ」と質問したのに答えた。初鹿氏は、事故で頭の骨を折った千葉県松戸市の小六男児に面会したとし、「運動会のため命をかけてやる必要があるのか」と追及。義家弘介文科副大臣が本紙の取材に「組み体操はかけがえのない教育活動」と答えたことも、安全対策に消極的と批判した。

馳氏は「この場でやめるとは言えない」としながら、組み体操の危険性について「周りに先生を配置しても(事故が起きれば)真ん中の子どもを救うことはできない。脊柱損傷や骨折など、日常生活に重大な支障を及ぼす」と述べた。

組み体操の安全 議員勉強会

全国的に事故が多発し、5日の衆院予算委員会では馳浩文部科学相が、中止も選択肢にあることを示唆した組み体操。安全対策について考える勉強会が3日、東京都千代田区の衆議院第一議員会館で開かれた。組み体操の危険性について訴えてきた名古屋大の内田良准教授(教育社会学)と千葉県松戸市立病院救命救急センター長の庄古知久医師が講演した。

衆議院議員の初鹿明博議員(維新の党)ら超党派の議員有志が開催。国会議員や地方議員、教育関係者、事故の被害者ら約100人が参加した。

組み体操の危険性について講演した名古屋大の内田良准教授と松戸市立病院の庄古知久医師＝東京都千代田区で



内田准教授は、大阪市などの教育委員会が、四つんばいに積み重なる「ピラミッド」を5段、肩の上に乗る「タワー」を3段に規制した例を紹介。ただ「その根拠が不明」と指摘し、「どちらの技も1、2段目が地に足を着くように組み、3段まで

にするべきだ」と提言した。

庄古医師は、同院の患者の事例として、5段ピラミッドで1カ月以上の入院、3段タワーで開頭手術の必要な事故が起きたことを紹介。日本スポーツ振興センター(JSC)から取り寄せたデータとして、年間8500件以上発生している事故のうち骨折は約2割で、1%は重度外傷だと説明した。

頭部損傷、頸髄損傷、腰椎骨折は、2012年度と比較して14年度は増加傾向にあるが、庄古医師は「JSCのデータは手術内容や入院期間、後遺症の有無が不明」と報告。「本人の過失なく事故に巻き込まれる組み体操は中止すべきだ」と訴えた。

(細川暁子)

「根拠なし。重傷例も」

ピラミッド5段、タワー3段規制